

トップメッセージ



株式会社三井住友フィナンシャルグループ
取締役社長
西川 善文

三井住友フィナンシャルグループ発足にあたって

はじめに、平成14年12月2日、「株式会社三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)」が発足いたしましたことをご報告するとともに、持株会社設立の背景についてご説明いたします。三井住友銀行(SMBC)は、統合効果を迅速に実現するべく合併方式を選択し、平成13年4月にスタートしました。その後、システム統合をはじめとする各分野における経営統合・粗利益増強・経費削減の両面における合併効果の早期実現、さらに主要なビジネスラインにおける業務改革の推進などを果たし、合併の「第一ステージ」を順調に終わることができました。そこで今後は合併の「第二ステージ」に歩を進め、従来から取り組んでいる「業務改革」に加え、新たに「グループ経営改革」を実行し、グループ全体としての収益力の向上と財務体質の強化を図ってまいります。今般の持株会社設立はグループ経営の最適化を目指すものであり、グループ戦略の立案・推進力を高め、各社のガバナンスを強化する一方、柔軟性・拡張性の高い経営組織を実現し、経営戦略の選択肢を大きく広げることができま

す。SMFGはSMBCを唯一の子会社としてスタートしましたが、2月には三井住友カード、三井住友銀

りーす、日本総合研究所を完全子会社化、同時に大和証券SMBC、大和住銀投信投資顧問の株式を銀行から引き継ぎ直接投資会社とし、さらに3月には、SMBCが100%子会社のわかしお銀行と合併する予定であります。SMFGはさまざまな事業を併せ持つ「複合金融グループ」として、今後一段の成長を遂げてまいりたいと考えております。

経営課題への取り組み

さて、当中間期の経済金融環境を顧みますと、米国経済の先行き不透明感の高まりや、日本経済における内需の低迷、輸出の牽引力低下、公共投資の減少や株式市場の低迷等、一層厳しさを増しております。こうした環境下、経営の最重要課題である不良債権の最終処理の促進と保有株式の圧縮を通じた「バランスシートの一層の強化」、ならびに、業務改革の徹底した遂行とグループ経営改革の実施、一段の効率化の推進による「収益力のさらなる強化」について、これまで以上にスピードを上げて取り組んでまいります。

そこで以下に、SMBCの当中間期におけるこれら経営課題への具体的な取り組みと今後の方針についてご説明いたします。

1. バランスシートの一層の強化

「バランスシートの一層の強化」についてのポイントは、「不良債権処理のさらなる促進」と「株価変動リスクの削減」の2点となります。

不良債権処理は平成13年度に将来リスクへの手当て等を強化したことにより、当中間期のクレジットコストについては2,663億円と概ね当初予想の水準にとどめることができました。しかしながら、平成14年9月末の不良債権残高については、新規発生もあり同3月末比1,969億円金融再生法開示債権ベースの減少にとどまり、なお一層のオフバランス化への取り組みが必要となっています。かかる中、アセットクオリティの改善に向けて問題債権の再生・最終処理の促進への対応を一段と加速するため、平成14年12月に「戦略金融部門」を新設いたしました。「大企業、中堅・中小企業それぞれの審査機能」や「再生、分割、統合など各プロセスに必要な投資銀行機能」、そして「最終処理の機能」を会計、法務等の専門機能とともに一つの部門に集約することで、より効率的、集中的、かつ迅速に、問題債権の再生・最終処理を図ってまいります。

次に株価変動リスクについては、3月に予定しているわかしお銀行との合併時に発生する合併差益を活用し、大規模に有価証券の含み損の財務処理を実施いたします。これにより、保有株式の売却をさらに積極的に進めてまいります。こうした一連の施策を通じ、株式保有制限を前倒しでクリアすることはもちろん、銀行経営の大きな不安定要因であった株価変動リスクを大幅に削減してまいります。

2. 収益力のさらなる強化

次に「収益力のさらなる強化」については、「業務改革の遂行」と「一段の効率化の推進」の観点から主なポイントをご説明します。

現在、主要なビジネスラインにおける「業務改革」について全行を挙げて取り組んでおります。そのうち法人ビジネスにおける「融資慣行の見直し」については、お客さまとリスク認識の共有を図り、貸出金利、貸出条件等の適正化を進めております。その実現のためには、一方的に取引条件の見直しをお願いするのではなく、お客さまの企業価値向上に向けた

財務アドバイスや金融ソリューションを提供し、それを着実に実行することに重点を置いています。既に対象となるお客さまへの説明を終え、リスクに応じたリターンを実現するという貸出金利最適化に向けた手応えを感じております。こうした取り組みにより、貸出ビジネスをこれまでの「buy & hold型」から「originate & distribute型」に転換し、根本的に改革していきたいと考えております。

さらに「融資慣行の見直し」に併せ、リスクテイク能力の強化も進めてまいります。具体的には、定型スコアリング方式によるビジネスセレクトローン等を通じた中小企業向けの貸出や、事業および資産のキャッシュフローをベースとしたノンリコースローン等に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

次に「一段の効率化の推進」については、従来から経費構造の改善に積極的に取り組み、既に邦銀の中で際立った優位性を有しておりますが、平成14年7月の基幹システム統合を踏まえ平成14年度中に国内の重複店舗の統合を完了する計画であるなど一段の効率化を推進してまいります。特に、「マスリテール取引の収益事業化」の主要施策であるローコストオペレーションの追求と、人員面などにおける効率化のさらなる実現を通じ、より筋肉質な収益体質の確立を目指してまいります。

終わりに

金融機関を取り巻く環境は、引き続き非常に不透明な状況にあります。しかしながら、どのような環境下にあろうとも、私たちSMFGは、グループの力を結集し、役職員一丸となってこれまで以上にお客さまのニーズを敏感に汲み取り、より良い商品・サービスの提供に努めてまいります。また、経営課題の解決に向けてより一層スピードを上げて取り組み、有効な対応策については、あらゆる方策を敢然と実行する決意であります。こうした取り組みにより、お客さまからの高い信頼・ご支持を頂戴しながらSMFGの財務体質・企業価値を向上させ、もって株主の皆さまのご期待にお応えしたいと考えております。

皆さまからのなお一層のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。